

第8回信毎こどもスクール
「バックマンの先生とゲームを作ろう!遊ぼう!」講師
東京工業大学芸術学部ゲー
ム学持教授 岩谷義典さん



ゲームをつくるということは人の心を知ること。人間を観察して分析してアイデアを考える。ゲームは楽しさが第一。アイデアは無敵だよ。

歴史の答えは一つじゃない。体験しながら学ぶのはとても大事なんです。



大切なのは、自分が面白いと思ったことを俳句にすること。それが人に伝わるように心掛けてください。学校のテストのような、たった一つの正解はありません。自分が心動かされたものを五七五にしたら、それが俳句です。

「たんけん 信濃の国 嫉妬編〜はいくを作ろう!」講師
俳人 神野紗希さん



こた 答えはひとつじゃない!

めい げん しゅう 2011年 先生たちの名言集

信毎こども記者クラブは今年、年間テーマの「たんけん 信濃の国」の取材教室などを通して、たくさんの人にめぐり会いました。2011年の最終号の今回は、1年間のいろいろな活動で先生になってくれた人たちからのメッセージを、あらためてみんなに贈ります。



同じことをやっているのに違いがないけど、仕事は毎日違う。きのうはこれがうまくいかなかったから、きょうはこうしてみようという工夫を続けています。

「たんけん 信濃の国」岡谷編講師
宮坂製糸所社長
宮坂剛志さん

「ハロー! ジャカルタ」筆者
まんが家 茶花ばさん
人生は一度きり。2011年12月31日という日も一度きり。その日、その時の映像を自分の目に焼きつけてきたら、きつとチャンスもひろえるよ。



「ジャカルタ」



こども新聞 まつぎ 藤川 信州アイトレス代表
グレート☆無茶さん

みんなはよく、「夢は何?」と聞かれるだろう。おれの夢は「長野を元気にする」。信州プロレスも(こ当地アイトレスグループ)あつがる学園応援部がある(あつがる学園)もここからスタートした。夢はかなう。でも、何か一歩を自分でふみ出さないとかなわない。それに気付いてほしい。

子どものころからアニメの映画監督になるかと思っていたわけではなく、まさか監督になるとはいまだに不思議です。何をしたらこうなるというふうな足し算、引き算では解明できない。何にでも興味を持って、おもしろいこと、好きなことを見つけてください。夢につながります。



アニメ映画監督
宮尾佳和さん

ここだけのヒミツ! ベテラン記者の失敗談



29本目 入社22年目
こども新聞のデス2
土橋正道記者
(土橋)

みんな最初は一年生
「がんばったのに...」
私の初任地は松本報道部です。1年生の秋、信毎主催のロードレース(一般の道を使った長距離走)を先輩記者たちと取材することになりました。
私が任されたのは5キロの部。普段の取材も四苦八苦、しかも子どものころから体育が苦手だった私は、スポーツの取材なんて...と何日も前から大緊張状態です。そして、出した結論は、とにかくレースをできる限り見ようでした。といっても、自分より速く走る選手たちのレースを見るのは簡単ではありません。方法は覚えていたのですが、近道をしながら何カ所も先回りして観戦しました。汗だくになりながらも、なんとかゴールに選手より先に到着。ゴールラインの脇に立って、1位のゴールを見届けることができたのでした。
ところが、会社に帰ると、社内で「怖いことで有名な先輩の写真記者(本当はともいい人ですが)が寄ってきて、「何か俺に謝ることはないか」と言うのです。そういつて見せられた写真を見ると、1位の選手のすぐ向こうに、直立不動の私がしつかり写っていました。
報道する側である記者は、ふつうは記事の写真には写らないものです。でもゴールの場面はそれしかりありません。翌日の新聞には、私の鼻から下だけにトリミングして、その写真が使われたのです。それ以来、写真記者といふのに仕事をすると、取材はしながらも、写真に写らないように必死で逃げ回っています。

【2011年のこども記者クラブの活動】

- 1月30日 写真教室「たんけん 信濃の国 諏訪湖編」in下諏訪町
- 3月6日 「たんけん 信濃の国「シナノ」のルーツをさぐる」in千曲市
- 5月21日 「たんけん 信濃の国 木曾編」in木曾町
- 6月19日 第8回信毎こどもスクール
- 「バックマンの先生とゲームを作ろう!遊ぼう!」in松本市
- 8月1日 「たんけん 信濃の国 岡谷編」in岡谷市
- 8月8日 ハロー! ジャカルタ・まんが教室 in長野市
- 10月30日 「たんけん 信濃の国 嫉妬編〜はいくを作ろう!」in千曲市
- 11月23日 イナスマイレブ宮尾佳和監督にインタビューin長野市

こども記者クラブのみなさん

今年はどうな年でしたか。地域活動部のメンバーは、こども記者クラブのみなさんといっしょに楽しくたくさん活動ができました。ありがとう。来年もみんな、面白くて楽しい信毎こども新聞やこども記者ニュースを作りましょう。

